

千葉大学大学院人文公共学府 教育課程編成・実施の方針（博士前期課程）

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 専攻分野はもとより、学際的・総合的分野における研究能力を涵養し、又は公共学的視座に立つ高度専門職業人の自立的活動に必要となる高度な実践的学修の機会を提供する。

この目的を達するために、以下のような特徴を持つカリキュラムを実施する。

1. 人文社会科学における基盤的理解を固めるため、異なる研究分野の手法や研究に必要とされる倫理について学ぶことを必須とする。
 2. 専攻分野に関連が深い分野について学際的理解を深めるため、選択必修の形で分野間横断科目群を設ける。
 3. 高度専門職業人としての実践的能力を涵養するための、キャリア系およびインターンシップ型科目を提供し、人材養成およびリカレント教育を実質化させる。
- 学識を実践の基盤として統合させるとともに、研ぎ澄まされた問題意識を通して独自の問題設定のもとに課題を定式化する能力を涵養する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- グローバル化や科学技術の進展著しい 21 世紀の知識社会にあって、人文科学及び公共学・社会科学を志す有為の人材に対して、公共的視座に立ち、学識、研究能力及び専門領域における深い独創性を兼ね備えた研究者並びに高度専門職業人を訓練・養成する。
- 海外からの留学生と国内の学生や教員との活発な交流の機会を準備するとともに、協同学修を促進するフィールドワーク型科目群を選択必修科目とする。これにより、多様な文化・価値観、社会、自然、環境についての理解、国内外の社会と連携し活動する際に基礎となる地球規模的な視点からの柔軟な思考能力と高度な学術英語をはじめとするコミュニケーション能力を修得させる。
- 専門領域における学修、研究に関する学修において、専門的立場を踏まえ地球的視点から考察する能力を涵養するために、留学をはじめとする多様な海外活動の機会を提供する。
- 海外での活動をはじめ学外における長期の研究の際に継続的な学修・研究指導を受けられるよう、情報通信技術を活用した学修・研究指導の基盤を整備す

る。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 博士前期課程では、大きく分けて 1) 人文科学及び社会科学の分野の学問研究をめざしてより高度で専門的な研究をしたい人に対する教育と、2) 学部教育よりより一層専門的な識見を身につけ、それをもとに公共的視座に立つ高度専門職業人として社会を牽引する人材に対する学修の機会を提供する。
- 学生一人に対して主指導教員のほかに、副指導教員を当てることにより、教員と学生の関係が多少とも閉鎖的にならないように配慮する。
- コース毎の専門を深化させる学修と並行して、専攻・コースをまたぐ必須の基盤科目や共通基礎科目群を設置し、学府としての人材養成像に沿ったプログラム化された教育を提供する。
- 知識集約型社会におけるイノベーションの創出を目的とした融合・学際型の学修の機会を提供する。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 人文科学及び公共学・社会科学の専門知識を統合・応用して課題に取り組み、問題を解決する能力を涵養することのできる学修の機会を提供する。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、プレゼンテーション、ディスカッション等でその達成度を評価する。
- 学位論文は、テーマの学術的な意義、人文社会科学の基盤的理解に基づく先行研究等の整理、適切な資料やデータの収集と分析、正確な論理に基づく叙述、結論の当該学術領域における独創性等の観点に基づき、学府の定める審査体制のもとで、論文審査および最終試験を厳格かつ公正に行う。